

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	もやいのえんがわ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 16日		令和8年 3月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17組	(回答者数) 16組
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 2日		令和8年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門特化ではなく総合的な療育を実施すること。複合型施設であり、畑などの活用できるスペースもあるため、児童や保護者のニーズに沿った支援を主体的な選択で進めることができる。	毎月のプログラムを児童発達支援管理責任者を中心に組んでおり、療法等でも内容がワンパターン化しないように職員間でのミーティングや声掛けを実施している。また、自由時間では自分で活動を選択するように促している。	日々の様子や、個別支援、面談等の機会により、ニーズに対してより良い支援を行えるようにすること。活動や療法として、新規の取り組みだけでなく、経過や点数等で変化や成長を感じてもらえるようにする。
2	地域密着型の複合型施設にある事業所のため、館内の高齢者施設の入居者様との多世代の交流、音楽イベントや畑作業などを館内行事として合同で行うことができる。	館内でのイベントは予定を合わせて参加するようにしている。同世代だけではなく、他事業所職員、高齢者施設利用者との関わりを持つことで社会性の向上にも繋がる。	高齢者施設利用者との交流では、同じ空間に居るが個々で活動することもあった。同じ活動として楽しむことができるよう計画していく。また、感染症の季節では感染症対策にも気を付けていく。
3	地域行事への参加、地域公園へのお出かけ、法人本部で月1回実施されているマルシェでのボランティアへ参加している。行事ごとでは地域の子供たちと集団と一緒に活動する機会もある。	法人内の活動だけでなく、地域の行事等で参加できそうなものがあれば積極的に参加するようにしている。また、イベントがなくても、近隣の市民センターに立ち寄り、近隣の公園での活動時間も設けている。	保護者様も参加できるイベントを計画していきたい。また、行事参加時の情報発信をブログや法人Instagramも活用していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様も合同で参加できるイベントが少ない。	今年度は1回バーベキュー交流会を実施したが、1度だけのため参加できないご家庭もあった。面談の機会を除くと、各職員との関わりが送迎時がほとんどとなっている。管理者や児童発達支援管理責任者だけでなく、職員と保護者様との顔の見える関係を作っていきたい。	来年度は保護者様参加型のイベントを設けることができるよう前向きに検討していく。
2	イベントの周知や家族連絡が手紙、電話、対面のみ。	手紙の紛失や入れ忘れ等の人的ミス。児童の利用頻度によっては、イベント情報の周知に時間差が生じてしまうことがある。電話の場合は、詳細な内容の共有が困難な場合があること。	人的ミス削減のため、ダブルチェック以上の規則化。ブログなどでも活動報告のみではなく、情報発信にも活用する。ブログや法人SNSについても周知を行う。
3	人員配置基準は満たした配置となっているが、職員の急な欠勤や女性職員が少ない事については、職員の募集を出している状態であり改善が必要だと考える。	女兒に対しての身辺自立に向けた更衣・排泄支援。(思春期に伴うケアを含む)職員欠勤時の人員基準を満たすために、勤務変更や当日のプログラム変更が必要な場合があること。	職員の募集を出している。職員間での支援内容や方法を共有する時間を定期的に作り、安定した支援体制を作る。